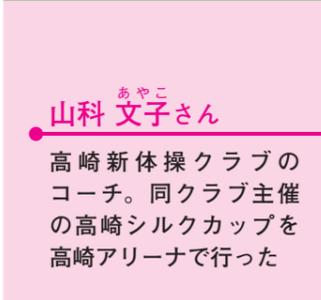




林 信義さん

高崎中央ミニバスのコーチ兼監督。ミニバスの大会で高崎アリーナを利用している



山科 文子さん

高崎新体操クラブのコーチ。同クラブ主催の高崎シルクカップを高崎アリーナで行った



富岡 賢治市長

高崎アリーナを利用して人の交流を増やし、まちをもっと魅力的にしたいと考えている



飯塚 美咲さん

高崎女子高校バスケットボール部副顧問。高校の体育館工事中、高崎アリーナで部活の練習を行った



樋山 敏男さん

高崎市子ども会育成団体連絡協議会会長。1月に上毛かるた大会を高崎アリーナで開催した



高崎アリーナが 生み出すにぎわい

平成29年4月にオープンした「高崎アリーナ」。FIVB男子バレーボールワールドリーグ2017や全日本体操種目別選手権、チアリーディング世界選手権大会、2018女子レスリングワールドカップ・高崎大会などのスポーツイベントの他、有名バンドのライブも開催されることで、県内外から多くの人たちが高崎を訪れるようになりました。市民大会から世界規模の大会まで幅広く利用されています。今回は、実際に大会を主催したり練習を行ったりしている関係団体の皆さんを迎え、高崎アリーナについてお話を伺います。



交流の拠点。高崎アリーナ

市長 これまで高崎には、室内競技で全国規模の大会が開催できるような施設がありませんでした。インターハイの県予選ですらも開催できないままだったんです。私は以前からスポーツや音楽などの分野の交流ができるようなまちにしたいという思いがあり、その拠点に高崎アリーナがなると思います。建物ができる前からアリーナの企画書を書いて国内のスポーツ団体などを回ったんです。初めは、反応がいまひとつでしたが、実際に建物が建ち始めて、新幹線から見えるようになって反応が変わってきました。全国大会や国際大会を誘致するにしても、いまや横浜と競えるくらいです。東京五輪の事前キャンプ地誘致などの売り込みができるのもアリーナがあるからです。

山科 参加者からは「駅から近くて良い」という声を聞きますね。メインアリーナもサブアリーナも天井の高さが十分にあるので、選手たちにとって演技のしやすい造りです。こうした体育館はあまりないんですよ。

前キャンプ地として高崎を優先的に考えるという動きにつながって協定も結びました。チアリーディングの国際大会を開催したときなどにも、参加する選手の出身国の国旗を道路沿いに掲げたいです。こうしたおもてなしの心が大切なんです。また、何よりもトップアスリート一流のプレーを間近で見ることができるといえるのは、特に子どもたちにとっては大きな価値あることだと思います。林さん、バスケットは大人になっても世界中で共通の話題となるスポーツなんです。林 はい。やっている国は多いですから。

市長 例えばバスケットをやっていたことがコミュニケーションのきっかけにもなるでしょう。いつか社会に出たときにスポーツに触れていた経験が、子どもたちにとって、きっと役に立つと私は思うんです。今度、浜川に21面のテニスコートを造るんです。センターコートは、箕郷町出身で、日本人初のウィンブルドン選手の清水善造を記念したメモリアルコートにします。そのセンターコートで行われる決勝や、この高崎アリーナでの試合がみんなの憧れになるようにしたい。高崎をスポーツのまちにしていこうと思っています。

ね。きれいで広くて、高さもあって、とても評判がいいですよ。

市長 それはうれしいですね。設計の段階から各種スポーツ団体に意見を聞いて、国際基準は必ず満たすようにしました。さて飯塚さんは高校でバスケット部の副顧問をされているんですね。使い勝手はどうでしたか。

飯塚 はい。とても広くて素晴らしい施設だと思います。学校の体育館が改修工事で使用できなかった時に、新体操部とバレー部、バスケット部が練習で使わせていただきました。おかげさまで新人戦では良い成績を残せたんです。本当にありがとうございました。

市長 それは良かったです。林さんはミニバスの分野ですね。ミニバスは大会の参加者が多いし、ご家族などがたくさん応援に来られますよね？

林 はい。先日市長杯兼第一回だるまカップという大会を開催しました。県外からも16チームが参加してくれて、高崎にこんな良い施設があるんだって好評でした。3月末には全国大会も開催する予定です。

市長 どんどんやっていただきたいですね。樋山さんは上毛かるたの市の大会を開催したんですね。

樋山 そうです。以前は浜川体育館があまりないんですよ。アリーナはその先駆けなんです。また高崎には女子ソフトボールのトップチームが2つありますが、彼女たちが優先的に使えるソフトボール場も浜川に整備します。スポーツに触れる機会を増やしていきたいと考えています。

飯塚 うちの生徒たちも世界大会が開かれるアリーナで練習をしたことで、モチベーションが上がりましたね。

市長 3月17日・18日には女子レスリングのワールドカップを高崎アリーナで開催します。金メダリストも出場する大会ですよ。世界レベルの試合をぜひ見てもらいたいですね。

アリーナが生み出す変化。その先のまちづくりへ

市長 アリーナを利用してみて、こうなったら良いと思うところはありますか？

林 アリーナ自体ではありませんが、宿泊の問題でしょうか。500人からいる参加者のホテルを確保するのにとても苦労しました。

市長 そうですね。今後ホテルの誘致に取り組みたいと考えています。あとは料理店です。大会などの会場選びで横浜と比較されることも多いんですが、あちらには中華街があるんです。

FIVB男子バレーボールワールドリーグ2017



育館で開催していたんですが、寒かったんですよ。高崎アリーナは冷暖房完備で、子どもにも保護者にも大変喜ばれました。すごく盛大に開催できました。

市長 子どもたちはみんな一生懸命ですからね。

おもてなしの心通うスポーツのまち高崎

市長 ポーランドの男子バレーボールチームが高崎に来たときには、歓迎の意を表すため、JRさんに協力してもらって、子どもたちに新幹線のホームで出迎えてもらったんです。ポーランドの旗を振って歓迎したら、すごく喜ばれました。ポーランドが東京オリンピックの事

よ。でも高崎の場合にはパッと思い浮かばない。大勢で食事のできる場所がちょっと無いんですよ。民間にご努力いただいで徐々に改善していきたいですね。山科さんは、気になるところなどはありますか？

山科 高崎アリーナの年間の予定表には多くのイベントが入っていました。市民利用とのバランスがどうなるのかなという点が気になりました。

市長 例えばイベントなどが重なったときには、個別に判断して、審査会で調整しています。利用の日程取りについては落ち着くまで、もう少し時間をいただきたいですね。アリーナがオープンしてから、たくさんの国際的な大会やコンサートなどが開かれるようになります。

外国人や県外からの人の流れができて、劇的にまちの雰囲気が変わってきています。「ここが高崎？」っていうくらい駅周辺がにぎわうんです。これを生かして、高崎のまちがもっと魅力的に輝くようにしていきたい、皆さんと一緒にまちを盛り上げていきたいと考えています。今後ともご協力ください。本日はお忙しいところありがとうございました。

一同 ありがとうございます。